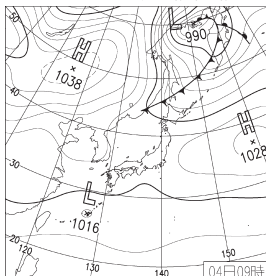


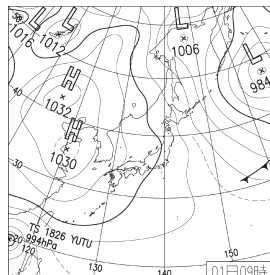
日々の天気図

— No. 202
2018年11月

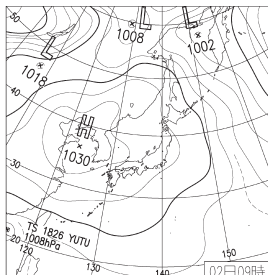
- ・北日本で初雪・初氷が遅く、稚内では観測史上最も遅い14日、札幌もタイ記録の20日に初雪。
- ・木枯らし1号、東京は39年ぶりに発表なし。近畿も22日発表は13年ぶりの遅さ。
- ・西～北日本で降水量少なく、山陰や北陸等6地点で11月1位の少雨、(気象庁予報部予報課)



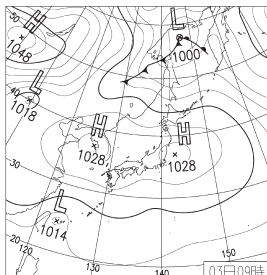
1日(木) 列島冷え込む
寒気の影響で全国的に気温が下がり、最低気温が12月上旬並の所も。釧路、長野、甲府で初霜、長野で初氷、北海道斜里岳、宮城県蔵王山、山形県月山、朝日岳など初冠雪。



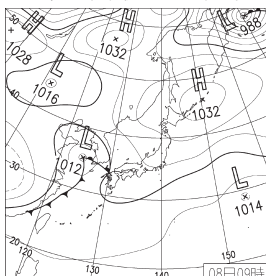
2日(金) 高気圧張り出す
沖繩・奄美は湿った空気の影響で所々雨、本州の日本海側は寒気の影響が残り曇りや雨、その他は高気圧に広く覆われ概ね晴れ、釧路で平年より11日遅く初氷を観測。



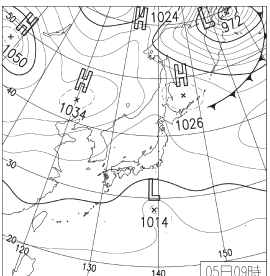
3日(土) 盛岡で初氷
沖繩・奄美は低気圧の影響で曇りや雨、東海～関東南岸は湿った空気の影響で曇り、その他は高気圧に覆われ晴れ、朝は放射冷却で西～北日本の2割近い地点で気温今季最低。



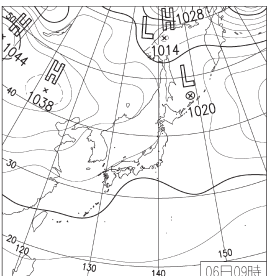
4日(日) 与論島で猛烈な雨
低気圧が通過した沖繩・奄美で雨、鹿児島県と与論島82 mm/1hは11月1位更新。湿った空気の影響で近畿～東日本は曇りの所が多く太平洋側の一部で雨。札幌と旭川で初氷。



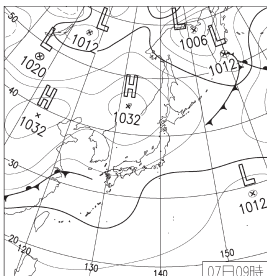
5日(月) 北海道を夜低気圧通過
大陸の高気圧が緩やかに張り出し概ね晴れたが、湿った空気の影響で南西諸島や東日本～東北では曇りや雨の所も。北海道も夜には太平洋側を除き雨。盛岡市、金沢市イチョウ黄葉。



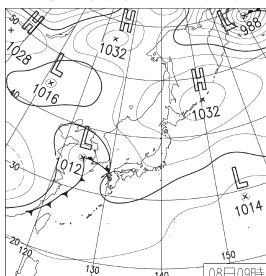
6日(火) 東海地方で激しい雨
本州付近を通過した上空の気圧の谷と低気圧の影響で東～北日本中心に曇りや雨の他は概ね晴れ、暖かく湿った空気が流れ込み、愛知県伊良湖で42 mm/1hの激しい雨。



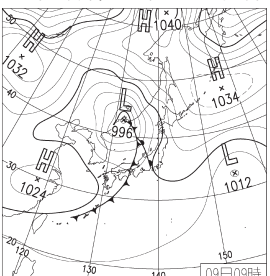
7日(水) 暖かな立冬
本州付近は中国東北区の高気圧に広く覆われ、全国的に晴れや曇り、最高気温は西日本～東北で平年より高く、10月上旬並の所も。函館市、佐賀市でイチョウ黄葉。



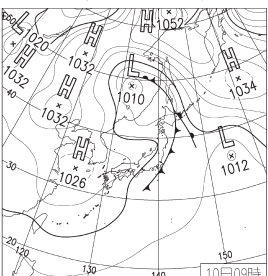
8日(木) 九州・四国は連日の夏日
前線を伴った低気圧が発達しながら黄海を北北東進。夜には九州北部で雨、北日本太平洋側も湿った空気の影響で曇り、所により雨。その他は高気圧に覆われて、日中は概ね晴れ。



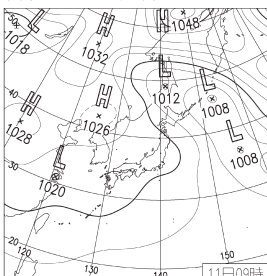
9日(金) 寒冷前線が西日本通過
日本海の低気圧に向かい暖かい空気が流入し、全国的に気温上昇。徳島県海陽の日最高気温27.4℃は、11月1位。寒冷前線付近では大気不安定。三重県紀伊長島で73.5 mm/1h。



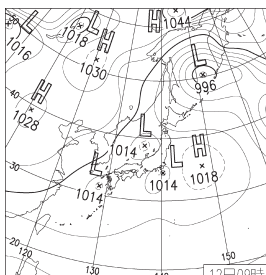
10日(土) 西日本晴れ北日本は雨
高気圧が張り出し九州～関東は概ね晴れ、気圧の谷や前線の影響で北陸～北日本は雨が降り、北海道羅臼の日降水量101.5 mmは11月1位更新。沖繩は湿った空気の影響で曇りや雨。



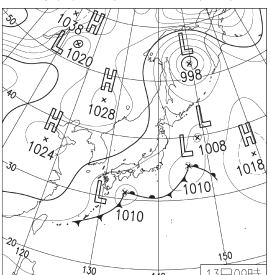
11日(日) 本州付近は小春日和に
沖繩～東北は広く高気圧に覆われ、風も弱く穏やかな晴天。北海道は気圧の谷の影響により所々で雨。最高気温は西～東日本で10月中旬～下旬並。函館市でカエデ紅葉。



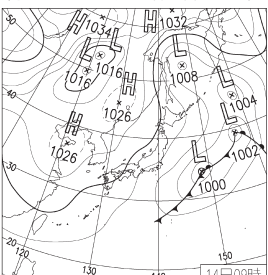
12日(月) 日本付近は気圧の谷
低気圧が九州付近を東に進んだ影響で西日本は曇りや雨、東日本～北日本は日本海の低気圧や気圧の谷の影響により所々で雨。鹿児島県中甕で昼前に57.5 mm/1hの非常に激しい雨。



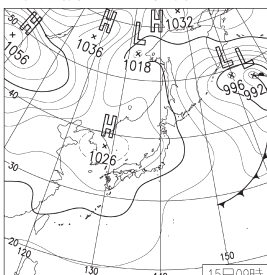
13日(火) 函館で初霜・初氷
九州北部や北日本太平洋側で晴れた他は全国的に気圧の谷や寒気の影響で曇りが広がりやすく、所々で雨。西～北日本では朝の最低気温が平年より7℃以上高く10月上旬並の所も。

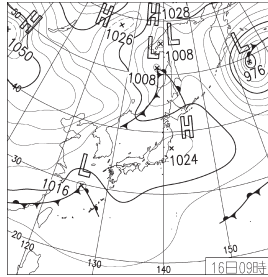


14日(水) 稚内、網走、旭川で初雪
上空約1500 mで-6℃の寒気が南下、高気圧に覆われた北海道では、放射冷却により気温が下がり半数以上の観測点で水点下。稚内では、昭和14年の統計開始以降最も遅い初雪。

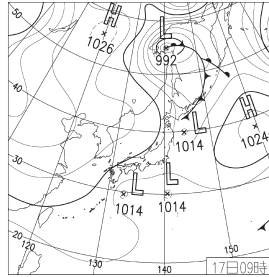


15日(木) 太平洋側は小春日和
高気圧に覆われ九州と四国～東日本太平洋側はほぼ快晴、寒気により日本海側は曇りや雨で北日本の一部は雪、湿った空気により沖繩も一部雨。室蘭、宇都宮で初霜。甲府で初氷。

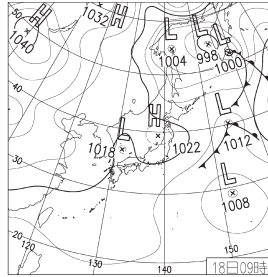




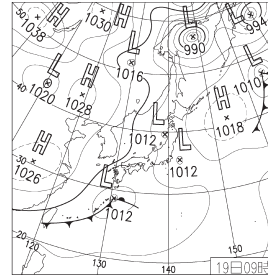
16日(金)沖縄で非常に激しい雨
 沖縄から九州と四国は低気圧が接近し雨の降った所多い。沖縄県安次嶺の50 mm/1hは11月1位。その他の地方も次第に雲が広がり、北日本日本海側は前線が接近し夜雨。



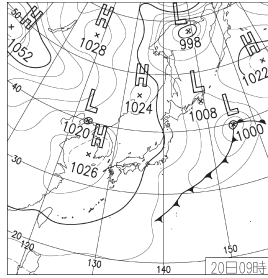
17日(土)北日本を寒冷前線通過
 北日本や北陸は寒冷前線や寒気の影響で曇りや雨、北海道は雪の所も。沖縄〜関東は大陸から高気圧が張り出し概ね晴れ。北海道鷲別岳で平年より20日遅く初冠雪。



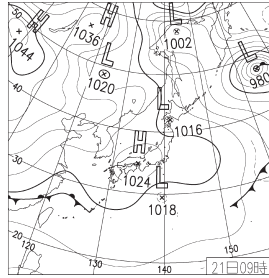
18日(日)西から天気下り坂
 低気圧が日本海を東進。夜には東シナ海にも低気圧と前線が発生。九州中心に東日本にかけて所々で雨。北海道も気圧の谷の影響で曇り、一部で雨。日中、近畿〜東北は概ね晴れ。



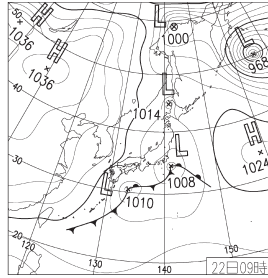
19日(月)帯広で初雪
 低気圧や前線の影響により広い範囲で曇りや雨、沖縄県奥で50.5 mm/1hの激しい雨。上空約1500 mで-6℃の寒気が入った北海道の一部では雪が降り、最高気温12月上旬並の所も。



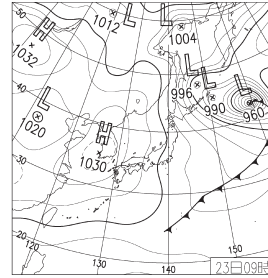
20日(火)札幌初雪、最晩タイ
 関東は明け方まで雨が残ったが、高気圧に覆われ西〜東日本中心に太平洋側は晴れ。山陰や北陸、北日本は寒気が入り曇りや雨で一部雪。青森市イチョウ黄葉。福島市カエデ紅葉。



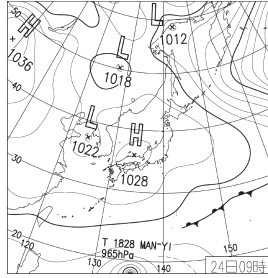
21日(水)台風第28号発生
 低気圧の影響で北日本では雪や雨のところも。東日本の太平洋側中心に晴れたが九州から下り坂。函館、釧路、室蘭、盛岡で初雪。水戸、熊谷で初霜と初氷。福島、宇都宮で初氷。



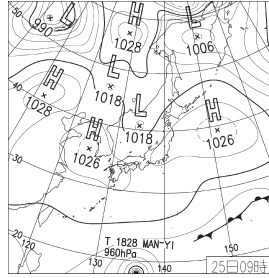
22日(木)全国的に天気ぐずつく
 低気圧や前線、寒気の影響で全国的に曇りや雨となり、北日本は雪の所も。東京都三宅坪田では52.5 mm/1hの非常に激しい雨。青森、秋田で初雪。近畿地方で木枯らし1号。



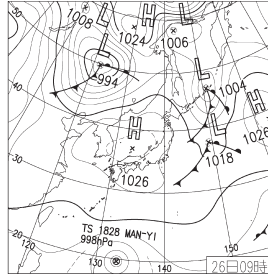
23日(金)真冬並の強い寒気
 上空約5500 mで-30℃以下の寒気が東北北部まで南下。山陰以北の日本海側を中心に雨や雪。山形で初雪。滋賀県伊吹山で初冠雪。北海道夕張で日降雪量41 cm。冬型は西から緩む。



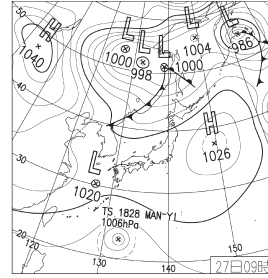
24日(土)九州北部で初霜、初氷
 上空約1500 mで-3℃の寒気が入った九州〜四国で朝の最低気温が1月下旬並となり、熊本県益城の-2.3℃など九州北部で11月1位更新が4地点。岐阜、高松も初霜。岐阜は初氷も。



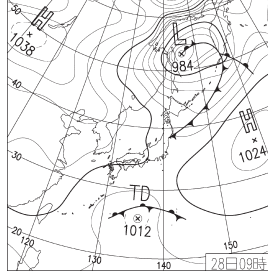
25日(日)秋田で初霜、初氷
 高気圧に覆われ西〜東日本の太平洋側などで晴れや曇り、各地で気温上昇し富山県内複数地点で10月下旬並の最高気温。夕方以降は低気圧や前線が接近し北陸や東北でも雨や雪。



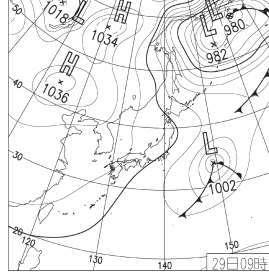
26日(月)横浜タンポポク開花最早
 北日本と北陸は寒気によりはじめて雨や雪、沖縄〜九州は気圧の谷の接近で次第に雨となったがその他は晴れ。22日に南シナ海で発生した台風第29号は9時に熱帯低気圧に。



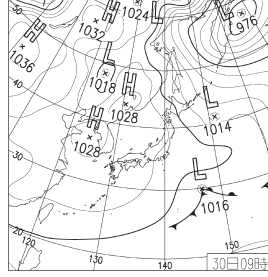
27日(火)北日本に寒冷前線接近
 寒冷前線や低気圧の影響で北日本と九州、四国は曇りや雨でその他は概ね晴れ。26日に熱帯低気圧に変わった台風第28号は、9時に再び台風となったが15時には熱帯低気圧に。



28日(水)全国的に暖かい朝
 暖気が残り朝の最低気温は平年より10℃以上高い所も。西〜東日本は気圧の谷の影響で太平洋側を中心に雨。北日本は寒冷前線が通過した後寒気が流入し、日本海側を中心に雨や雪。



29日(木)北海道日本海側雪続く
 大陸から高気圧が張り出し、西〜東日本と北日本太平洋側の曇りや雨は次第に回復。北日本日本海側は雨や雪の所が多く、北海道音威子府で日降雪量34 cm。夜は北陸と関東で雨。

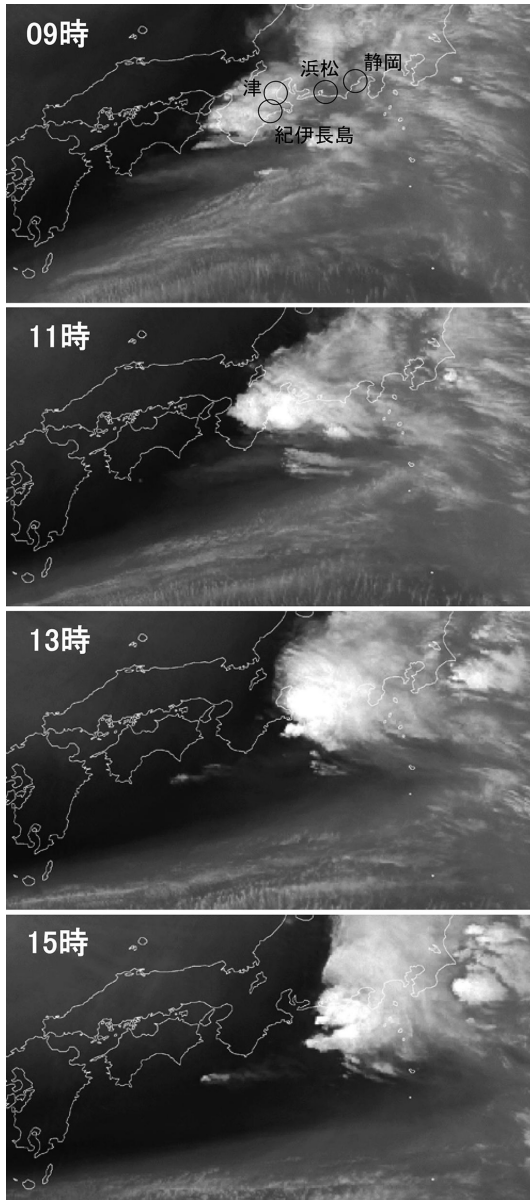


30日(金)富山でひょう
 寒気の影響を受ける山陰〜北陸を除き西〜東日本は晴れ。北日本は強い寒気が入り日本海側中心に雪や雨で最高気温は12〜1月並。東京は39年ぶりに木枯らし1号なし。

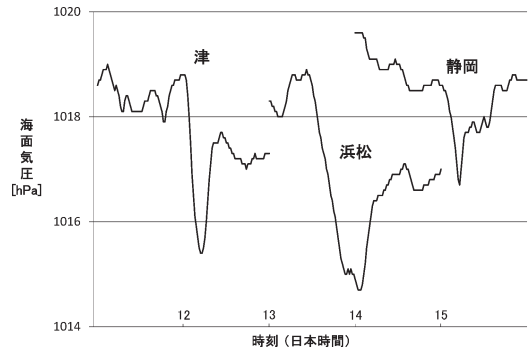


今月のひまわり画像—2018年11月

急激な気圧の変化を伴った対流雲



第1図 2018年11月9日09～15時（日本時間）の2時間毎の本州付近における水蒸気画像。



第2図 9日日中、東海地方で海面気圧の低下が顕著だった観測地点における同時系列変化図。

第1図は2018年11月9日09～15時（日本時間）の2時間毎の本州付近における水蒸気画像である。同日、本州南岸付近の中上層は日本海の寒気を伴ったトラフ前面の分流場に位置していた。沿海州を北東進する低気圧からのびる寒冷前線の暖域側にあたる四国沖から東海海域にかけての下層には南から暖湿な空気（09時の潮岬の高層観測では、800 hPa 付近以下の高度で相当温位約330 K）が入り込んでいた。また、同図の水蒸気画像で暗域として確認できるように、中上層では九州南部方面からの低相当温位の空気の貫入が顕著であった。このため、本州の太平洋側を中心に大気安定度が低くなり、紀伊半島では地形効果も加わって、筆の穂先状をした対流雲域が発生・発達した。解析雨量によると三重県で雷を伴った猛烈な雨となり、アメダスでは同日11時までの1時間に紀北町紀伊長島で73.5 mmの降水量が観測されるなど、同県南部の3地点で11月の1時間降水量の極値が更新された。

9日日中の東海地方の地上観測点の時系列データを調べると、上述の発達した対流雲の通過時に海面気圧の激しい変化が見られ、特に対流雲の北象限にあたる津、浜松、静岡などで顕著であった（第2図）。気圧変動幅が最も大きかったのは津で、10分間に3 hPaの気圧変化が観測された。また、気圧の急激な低下に合わせ、東寄りの風の強まりと共に風向が西寄りに急変した観測地点が多かった。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）